

1 1 管内酪農場における農場HACCPへの取組

鳥取県西部家保 ○植松亜紀子
鳥取県大山普及支所 富谷信一

1 はじめに

平成24年度から管内一酪農場をHACCP導入のモデル農場として関係機関と連携しながら支援し、平成26年7月に管内初の農場HACCP推進農場として指定された。同農場は当面認証取得には向かわないことになったものの、HACCPの取組は継続する意向であったので、平成26年度以降は現実的なHACCP運用を図ることとした。平成24年度以降農場HACCP推進農場指定までの取組は以前報告されているので、今回は平成26年度以降の同農場における取組について報告する。

2 モデル農場概要

モデル農場は、大山町内の搾乳頭数約230頭の大規模農場で、従業員は11名、年間約2千トンを出荷している。

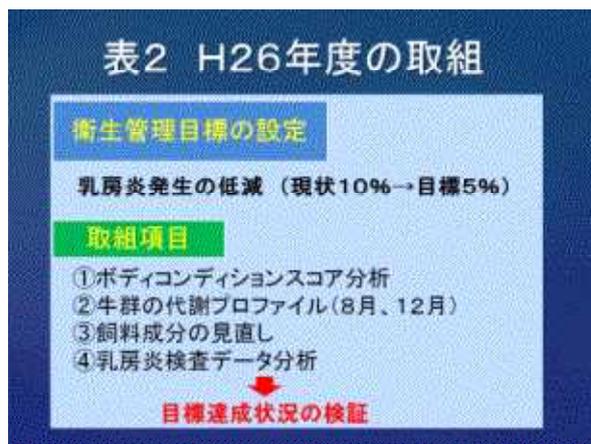
3 取組概要

取組の進め方については、毎月開催される鳥取HACCP研究会において表1に示してある関係機関等が参加し、モデル農場の進捗状況、疑問点、問題点等についての報告、意見交換を行った。同時に、モデル農場検討会では、農場責任者、家保、普及所等が参加し、毎月1回検討会を重ねた。

(1) 各年度の取組内容

平成26年度は、衛生管理目標を乳房炎発生の低減とし、目標を現状の発生率の10%から5%に設定した。目標達成するための具体的項目として、①ボディコンディションスコア分析②牛群の代謝プロファイル③飼料成分の見直し④乳房炎検査データ分析を行い、最終的に目標達成状況の検証を行った(表2)。

ボディコンディションスコアについては、10日ごとに全頭チェックを行い分析した結果、5～9月期は乳牛の各ステージ間のボディコンディションスコアの平均値の変動が大きかったが、10月期以降は変動が減少し改善したと思われる(表3)。牛群の代謝プロファイルについては、8月と12月の2回実施し、8月時点でステージの全期間を通しアルブミン、血液尿素窒素が低値を示しており、飼料中のタンパク不足の可能性、またグルコースが低い



個体も散見されたことから、ややエネルギー不足の可能性が示された。12月時点ではこれらの数値が上昇し、飼料中のタンパク及びエネルギー不足は改善されたと考えられた(表4)。

表3 BCS分析(H26)

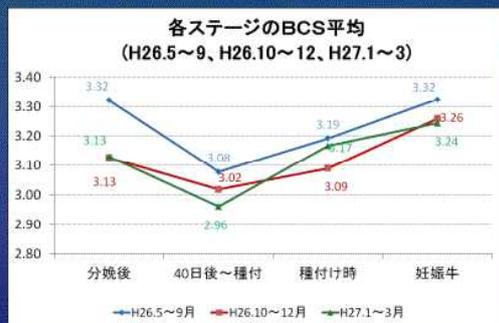
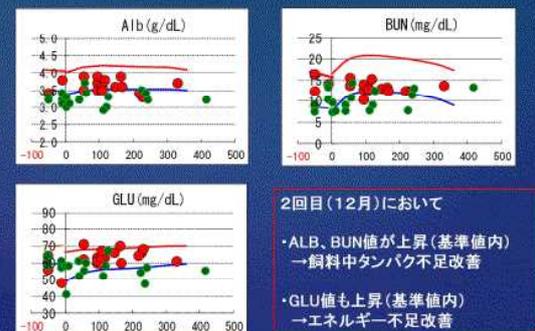


表4 牛群代謝プロファイル



飼料については、急激な飼料成分の変更による影響が考えられたので、乳牛の状態に合わせ飼料成分の微調整を行った。平成26年度における乳房炎検査データを分析すると、大腸菌群による乳房炎が約半数を占めていることが判明したので、敷料検査を行いながら牛床管理を改善するようにした。

平成26年度の目標達成状況の検証として、乳房炎頭数割合の推移をみると、4月から8月にかけて乳房炎頭数割合が10%程度だったが、9月以降減少傾向となり、12月以降は目標値5%以下を示しており、乳房炎発生の低減について目標は達成できたと考えられた(表5)。

表5 目標達成状況の検証 (乳房炎発生の低減:目標5%)

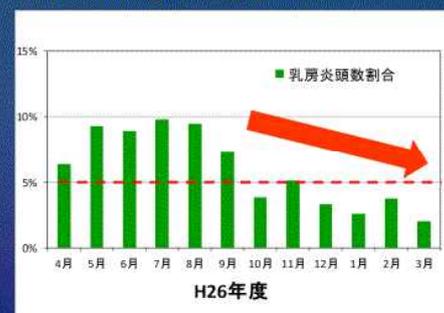


表6 H27年度の取組

従業員との意見交換会

ワークショップ形式
(2グループに分かれディスカッション)

取組項目

- ①場内環境整備 (休憩室確保)
- ②搾乳手順マニュアルの見直し(ラクトコーダー検証)
- ③飼養衛生管理基準の運用(年間行動計画)

表7 場内環境整備(休憩室の確保)

休憩室を整理整頓
→従業員が集まり、話ができる空間を確保

月1回のHACCP検討会も休憩室で実施
→農場責任者だけでなく、従業員も参加



平成27年度は前年度の反省点として、農場HACCPの取組が農場全体の意識付けに至っていないことを踏まえ、従業員とワークショップ形式により意見交換会を実施した。それをもとにして、平成27年度は①場内環境整備②搾乳手順マニュアルの見直し③飼養衛生管理基準の運用について取り組んだ(表6)。従業員との意見交換会において、「どのような農場にしたいか」に対しては他牧場の手本となるような牧場、きれいな牧場、成績が向上する牧場、「そのために自分たちが出来ること」に対しては場内環境整備、作業のマニュアル化等の

